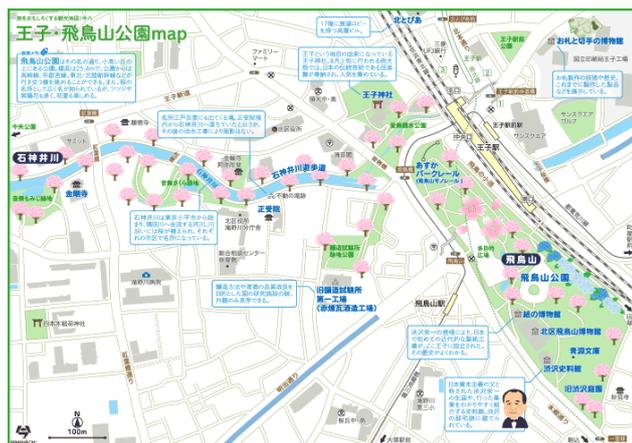


都内お花見 王子飛鳥山公園から王子稻荷

～春に先駆け 桜の蕾を楽しみました～

企画委員会

寒の戻りでやや寒の中、春の訪れの使者を心置きなく楽しみ、気持ちは暖くなる花見でした。昨年と打って変わってコロナ制限のくびきを脱した喜びを感じることができました。今回訪れたのは、都内北部に位置する王子です。花見は、王子駅からすぐの飛鳥山公園で、武蔵野台地の東北の辺に位置します。ここは、江戸八代將軍吉宗の頃からの花見の場で、明治になってからは渋沢栄一が居宅を構えていた場所です。



プロローグは桜の花のチラ魅せ

飛鳥山公園全体に、桜木が散開していました。気象庁の予報通り、ちらほら前の蕾桜でした。1週間後の満開を想像して、この控えめ桜花の登場を愛でました。



日時：2024年3月21日（木）日帰り
目的地：飛鳥山公園、音無親水公園、王子神社、
集合：JR王子駅 中央口 午後1時
解散：JR王子駅 付近 午後3時
参加費：なし
費用：現地往復交通費、各自支払
参加者：20人
リーダー：

順路：集合；JR王子駅中央出口 徒歩移動
飛鳥山公園→観桜散策→徒歩→音無親水公園→
徒歩→王子神社→解散

懇親会：有志が、王子駅前にある北区複合施設「北とびあ」1F キリンシティで賑やかに打ちあげました。二次会までありました。

記念写真 飛鳥山公園での記念写真です。



飛鳥山公園 JR王子駅から徒歩5分

徳川八代將軍吉宗が、江戸庶民の行楽のために桜を植樹し開放したのが初めです。園内に、東京都指定文化財の「飛鳥山の碑」、江戸時代の学者・佐久間象山の「桜賦(おうふ)の碑」がありました。ここは、新東京百景の一つです。飛鳥山は、先史時代から住みやすい台地だったようで、古墳が公園の東側にありました。

現在も引き続いての桜の名所で、定番のソメイヨシノはもちろんのこと、淡い緑色の「御衣黄」、八重で大輪の「福祿寿」などが次々に開花します。今回の花見では未だでしたが、絢爛豪華な桜花満開を想像しました。



旧渋沢庭園

ここ飛鳥山公園に、渋沢栄一の旧宅や庭園が残っていました。大正時代のもので重要文化財になっていました。今回は、その外観をたつぷりと眺めました。まずは、青淵文庫、広い庭園を前に配置した石造りでステンドグラスが窓にはめ込まれていました。



次は、晩香廬という建物でバンガローをもじったようです。この建物は庭の木々と一つになった雰囲気醸し出していました。これぞ、瀟洒な建物、典型でした。



音無親水公園

JR 王子駅北口を出ると、すぐにこの公園の入口でした。



もともと、この地は日本の都市公園 100 選の一つで、江戸の浮世絵に描かれたほどの景勝地でした。音無橋はアーチ橋で美しく、水車、石畳が配置してありました。

王子神社 (王子権現)

東京十社のひとつです。旧称の王子権現から、この地名が王子と名付けられたそうです。家内安全などのもろもろの願いを込めて、手を合わせました。



8月の例大祭「槍祭」では、田楽舞「王子田楽」が神前に奉納されます。これは、日本三大田楽のひとつです。なお、落語「王子の狐」の舞台になった王子稲荷神社は、この王子神社とは別で、ここから徒歩 10 分ほどの場所にあります

王子神社の参道の脇に大イチョウがありました。東京都指定文化財となっていて、名は体を表すように青空に向かって聳えていました。鎌倉末期から室町時代の頃に植えられ、樹齢 600 年だそうです。



飛鳥山公園モノレール

飛鳥山公園は台地にあり、かなりな高さです。が、この飛鳥山公園モノレール乗車で、2 分の登山気分です。楽ちん快適でした。車両が登るにつれ、眼下の街の風景が変化し、新鮮な景色が出現しました。



公共基準点

飛鳥山公園の西側の場所がありました。緯度と経度が明確になっていて、測量の基準点です。普段は目にとめることの少ない貴重なものでした。

